



奈川の人口	
令和7年3月1日現在	
総世帯数	285世帯
総人口	540人
男	266人
女	274人

発行 奈川公民館
 発行者 忠地 愛 男
 編集者 公民館報編集委員会
 印刷 (株)プラルト

六年生を送る会



三月五日、奈川小学校で「六年生を送る会」が行われました。この日のためにがんばってきた三人の下級生の企画で、ゲームをしたり、六年生のなつかしい姿のムービーを見たりしました。

そんな六年生からのお返しの歌とダンスには、さすが！と感心させられました。みんなで記念写真を撮り、楽しい時間を過ごしました。



奈川小放課後子ども教室のお別れ会



二月十九日、奈川小放課後子ども教室のお別れ会が、文化センター夢の森三階和室で行われました。スタッフから子ども達へ卒業と進級おめでとうのメッセージとともにプレゼントが贈られました。

この春小学校を卒業する六年生が過ごした六年の間には、大きなできごとがありました。卒業・進級おめでとうございました。笑顔のたえない一年でありました。

二月十九日、奈川小放課後子ども教室のお別れ会が、文化センター夢の森改修工事の際には、使っていた部屋が使えなくなったり、入口が変更になったりと、環境が変わったりもしました。どんな状況であっても、元気な笑顔で過ごしてくれた子ども達も、春からまた一つ大きくなります。



そば打ち
何度見ても美しい

二月十七日、文化センター夢の森で「そば打ち講習会」を開催。今年度は要望が多く、三回の講習会を実施しました。

そばを打って二十年、講師の丸山寿江さんは、そば粉から捏ね、延して、たたみ、切る流れが惚れ惚れするほど美しいのです。

生徒さん個々のそば生地の具合を一目見て、少しの声掛けで、美味しいそばになりました。



2月6日奈川小学校で「奈川カフェ」オープン

わかんじき

一月三十一日、奈川のツアーガイド「だいじ屋」関谷健司さんの指導のもと野麦峠スキー場で「わかんじきで雪山散歩」を開催しました。

初めて履く木製のわかんじきは思いの外軽く、足さばきの良さにとても驚きました。ゲレンデトップからスキーヤーに背を向け少し登ると、雪に覆われた樹林帯になります。その先に展望台が有り視界は開けましたが、この日の景色はすっぽり雪雲の中に隠れていました。

2月10日 男しよの体力講座 学校編



2月28日 野麦街道の歴史勉強会

奈川ピカイチ

Q&A

ベーカリー「製材所のパン屋」に伺いました!

Q 「製材所のパン屋」を立ち上げた経緯は?

A 奈川で林業が盛んだった頃、木こりだった父・清さんが製材所を立ち上げたが、経済の流れの中で製材事業が縮小。2013年に清さんが亡くなりその4年後に製材所を閉めました。製材所には使われていない木材がたくさん残っていました。姉の亜紀子さんがある時、「ここに残った木材を燃料としてパンを焼けばいいんだ! 圭子(亜紀子さんの妹)はパティシエ、パンを焼く職人。パンを焼いて生きていけばいいんだ!!」と思いつき、この形であれば父も納得してくれるだろうと2021年7月にオープンし、4年目を迎えました。

Q 「製材所のパン屋」のこだわりは?

A 安心、安全かつ美味しくなければと素材と味には自信を持っています。北海道、長野の国産小麦や奈川のそば粉や野菜、ミネラル豊富な砂糖や塩を使用。パン作りの親方、圭子さんのこだわりは、干しぶどうの自家製酵母を使用していることです。

Q おすすめのパンは?

A 奈川小中学校の給食に出している「お山のパン」。黒糖を使っている素朴なパンです。

Q 今後の挑戦は?

A 田舎の「ホットステーション」であるために、奈川を訪れる人の心あたたまる場所、地域の人の交流の場所として、細く長く奈川にあり続けたいと考えています。また、敷地内でコーヒーも出せるカフェを構想中です。



奈川の「製材所のパン屋」を永遠にと想う、向井姉妹と息子さん(亜紀子さん、智さん、圭子さん)

【製材所のパン屋】
営業日：金・土・日
営業時間：9:30～18:00
電話：090-8942-6022



しみ、廃線になったリフトの下でそり遊びもして雪を存分に満喫しました。舞い上がり顔にかかる新雪はふわふわで冷たかったけれど、皆で笑い転げ、童心に戻ったような、楽しい時間でした。

野麦路

保護犬の施設のボランティアを始めて、丸七年が経過した。定期的にシエルターへ行きお話をしたり、イベントや譲渡会のお手伝いをしてきた。

五歳の誕生日を目前にしてかわいがっていた愛犬が亡くなった。病気を抱え、余命宣告は受けていたものの、早すぎる別れは、本当にこたえた。このまま犬から離れてしまふことを恐ろしく感じ、ペッコロス回避と、こんな私でも何か力になればと、保護犬の施設に生まれて初めて足を踏み入れたのが、今に至るまで。

っかけ。施設にて、「そろそろ犬、飼って見たら?」と言われるが、首を縦には振らない。生き物の命を預かる大変さは、愛犬と過ごしていた時に痛い程感じた。痛いも苦しいも、言葉にしてくれないから、毎日しっかり向きあい、表情や動作を見て察する必要がある。もちろんお金もかかるし、体力や知識も必要。お金もないし、あちこち痛い。でも、私が行くと、お座りしてしっぽを振って出迎えてくれる子達がそこにはいるから、飼うより会いに行こうと思っっている。(編集委員)